

リニア・三遠南信時代を展望

～南信州14市町村はどう連携・協調すべきか～

高森町長

壬生照玄

飯田市長

牧野光朗

飯田・リニア駅前空間デザインノートより(飯田市提供)



壬生照玄町長

高森町と飯田市は遺跡や古墳が隣接し、古代から深く結び付いていましたが、リニア時代に向け、連携したまちづくりが求められます。高森町内では、飯田市のリニア駅周辺整備計画に町がどう呼応するか、関心が高まりつつあります。そこで広報1月号は町長の新春メッセージでなく、南信州広域連合長である飯田市長との対談としました。よろしく願います。

牧野光朗飯田市長 よろしく願います。

【市町村の連携について】

壬生 地方創生時代に入り自治体間の競争が激しくなってきました。どの自治体にも必要な施設はあると思いますが、各市町村で同じような施設を造ろうとするのはいかなるものでしょう。

牧野 あまり良くないですね。定住自立圏の考え方の一つに、生活圏・経済圏が同じ市町村であればなるべく役割分担をして、重複しない政策をとるということがあります。

壬生 リニア時代に向けて、例えば、阿智村の星空で誘客し、飯田市内に宿泊、季節に合わせた観光農園を利用するといった発想をもう少しみんなで共有できたらいいと思うんですが。

牧野 交流人口の拡大は今後大きなテーマになります。リニア・三遠南信時代は飯田下伊那(以下『飯伊』)がある程度ベースを揃え、周遊を目指す方がいい。下伊那北部であれば観光農業などの強みを生かし、天龍峡や昼神温

泉、遠山郷、そして西南部の見どころも回れる仕組みをつくり、一つのパッケージとして売り出せば。

壬生 そうしたことを話し合える場が必要なのでは？

牧野 そうですね。南信州観光公社がDMOになり、南信州地域全体の着地型観光を考える役割を担い始めました。ノウハウを十分持っているDMOを中心に議論をしながら進めていけば、先ほどの話は絵に描いた餅にはならないと思います。

壬生 農家民泊は観光公社が全国に先駆けて始め、高森の農家もお世話になっていますが、来訪者と地域の皆さんを「つなぐ」という観点から、今一度目的を見直す必要を感じます。

牧野 SNSでこの地域の良い所を世界に向けてアピールできる時代となり、農家民泊も既に外国人の受け入れも始まっているので、食であれば伝統野菜、飯田焼き肉、ねぎだれのおでん、市田柿といった飯伊らしさのある「お



もてなしができれば、地域の奥深さを出せると思っています。

壬生 「日本一の焼き肉の町・飯田」という特徴は北海道の北見市に言われて気付き、売り出したそうですね。

牧野 自分たちにとって当たり前なことが外から「面白い」と言われて特徴に気付いた例です。

壬生 リニア駅周辺の整備もデザイン会議で話し合いを続け、一つの形となりましたが、焼き肉や果樹みたいなものを生かそうという話はしてききましたか？

牧野 らしさを出す議論はずっとありましたが、木製の大屋根などハード的な部分が先行し、ソフト面はこれからになります。特色を打ち出し、焼き肉やスイーツの食べ歩きを可能にしたりすれば、発信力は増すと思います。

壬生 それを個別にやるのではなく、目標を立てて14市町村でコンテストをし、例えば、丘のまちフェスティバルで結果を発表するというのはどうでしょう。

牧野 いいですね。B級グルメの位置づけで。バラエティ豊かな地域性が出せます。

【地域自治について】

壬生 高森町では自治会の未加入が進み、地域コミュニティの維持存続が課題になっています。

急増が予想されます。今から対応しないと大変なことになります。

飯伊にとっていま一番大きな課題は、コミュニティの維持です。変化はどんどんやっています。これからも異文化が入ってきますし、リニア・三遠南信時代に向けてコミュニティの変化が加速します。一方で綿々と築いてきた歴史文化に裏打ちされた地域らしさ、それに基づいた生活を守りながら、新しい皆さんともうまくやっていけるコミュニティをどうつくるか。これを飯伊全体でやらなければ。

壬生 外国人も含め、飯伊地域の文化を学べる場があってもいい。私はエス・バードがいいと思います。

牧野 エス・バードを会場にまず高森と座光寺あたりが実験的にやり、成果があればほかの地域にも横展開していくというのはあってもいいですね。つながりがある公民館活動をパイ役。市町村の枠を越えたコミュニティ同士の連携ができるようになればきつという方向に向かい、悶々とした部分のブレイクスルーにつながるはずです。小さな学習会から徐々に広げていけば、川一本で溝がある感じは埋まってしまうと思います。

【地域の未来を担う子どもたちにメッセージ】

牧野 地域人教育でうれしいのは、地域の学びを「面倒くさい」「うざい」と言っていた生徒が地域の皆さんと接し、地域課題に気付くことで当事者意識が芽生えること。その先にあるのは「こうしたらうまくいくかもしれない」という地域貢献の気持ちです。地域が自分たちのやりたいことを応援してくれると分かった生徒たちは間違いなく地域に戻ってきます。そうした若い人たちを飯伊全体で

牧野 未加入問題は飯田にもあります。地域の皆さんで自ら行った方がメリットが出る事業まで、かなりのコストをかけて行政に依存しなければならぬ状況になりかねません。自治組織がなくなれば、地域課題が見つかったも、地域の総意として行政に伝えられなくなります。

壬生 飯田市の「地元企業と高校生を『つなぐ』事業」や地域人教育を経験した高校生は、地域に対する関心が高まり、大人にとっても良い刺激になります。地域の将来が変わる期待も高まっているこの時期だからこそ、周辺自治体も協力させてもらえたら。高森町では中学までに地域学習に力を入れていますが、高校生になると地域とのつながりが途切れてしまう気がします。

「いま一番大きな課題は、コミュニティの維持です」(飯田市長)

牧野 地域人教育を飯伊全体に広げる取り組みは私も必要だと思いますが、普通科へのカリキュラム導入がかぎとなります。

壬生 高校生が地域を離れる中、足りない労働力を補うため外国人労働者も増えています。外からの移住も大切ですが、今いる人達がきちんと世代を受け継がないとコミュニティが成り立たなくなります。

牧野 法律改正により、外国人も居住5年を経過すれば、家族を呼び寄せて一緒に暮らせるようになるため、今後全国的に外国人の

育てたい思いがあります。ぜひ町村の皆さんと一緒に頑張ってやればと思います。

壬生 地方創生の本質は人が育つことだと思います。そのことは高森町という点でとらえるのではなく、飯伊地域という面であらえ、14市町村がそれぞれの個性を活かしながら協力し同じ方向で、次世代を担う若者を育てる必要があります。幸いにも飯田市と高森町は「人を育てる」という同じ方向に向かっていきます。「人が育てば地域が育つ」を合言葉に、お互いに連携し、地方創生の課題解決を実現させたいものです。

「エス・バードを使って連携しましょう」(町長)

壬生 今回新たな取り組みとして、新春の町長メッセージという形ではなく、飯田市長との対談を掲載させていただきました。高森町の課題は地域全体の課題になっています。この紙面だけではお伝えできないかもしれませんが、私たち首長は、リニア開通後の新しい時代を迎えるにあたり『地域全体がどうあるべきか』をお互い真剣に考え取り組んでいます。どうか、町民の皆さまのご理解をお願いするとともに、今後町政、広域行政に対しご協力をお願いいたします。今年一年が町民の皆さまにとって素晴らしい年となりますことを心よりご祈念申し上げます。



飯田・リニア駅前空間デザインノートより
「広場空間のイメージ」(飯田市提供)

リニア・三遠南 信時代を展望

～南信州14市町村は どう連携・協調すべきか～

高森町長

壬生照玄

飯田市長

牧野光朗

